

月報 2021 年 9 月 30 日 No.368

石城山岳会

9 月号

四方通信



石城山岳会事務局編集

那珂川水系 苦土川 中の沢

滝川溪谷遡行

広野町・五社山（685m）

川内村・五社山（598m）

屹兎屋山（875m）

甲子山（1549m） 甲子旭岳（1835.2m）

甲子山・旭岳

旧白河高原スキー場～甲子温泉

御前ヶ遊窟（846m）

鷹巣山（559m）

月山登山（1984m）

森吉山 桃洞沢～赤水沢 和賀岳

森吉山 赤水溪谷

旧白河高原スキー場～甲子温泉

那珂川水系 苦土川 中の沢

2021 年 8 月 2 日(月)

秋葉、栗崎 2 名

那須の中の沢を遡行してきた。

当初の予定は、井戸沢を遡行して中の沢を下降する予定だったが、とんでもないミスで中の沢遡行に変更した。

歩き始めの林道の取り付き間違いに、秋葉さんも私も全く気付かず、というか二人共、その道だと思い込んでいたため、林道を 4Km、約 1 時間歩く。

正しい林道に戻った時には 8Km、2 時間の準備運動を終えた。

道迷いはこうして起こる・・・

そこから入渓地点まで 4Km、1 時間。

10:30 入渓。

沢に降りると、直ぐに左から、当初遡行予定の井戸沢が入る。

始めは水量も多く、膝ぐらいまでは水がある。

すぐにナメだが少しデコボコで歩きにくい。

この後も基本明るいナメの連続で、ところどころに、登れる 2・3・4m ぐらいの小滝がでてきて楽しい。

左から峠沢が入る二俣で昼飯とする。

その後もしばらくは、歩きやすい明るいナメが続き、その後はゴーロ気味になる。

右から赤岩沢が入るが、そのまま中の沢を進むと、大峠からくる登山道が横切って、遡行は終了。

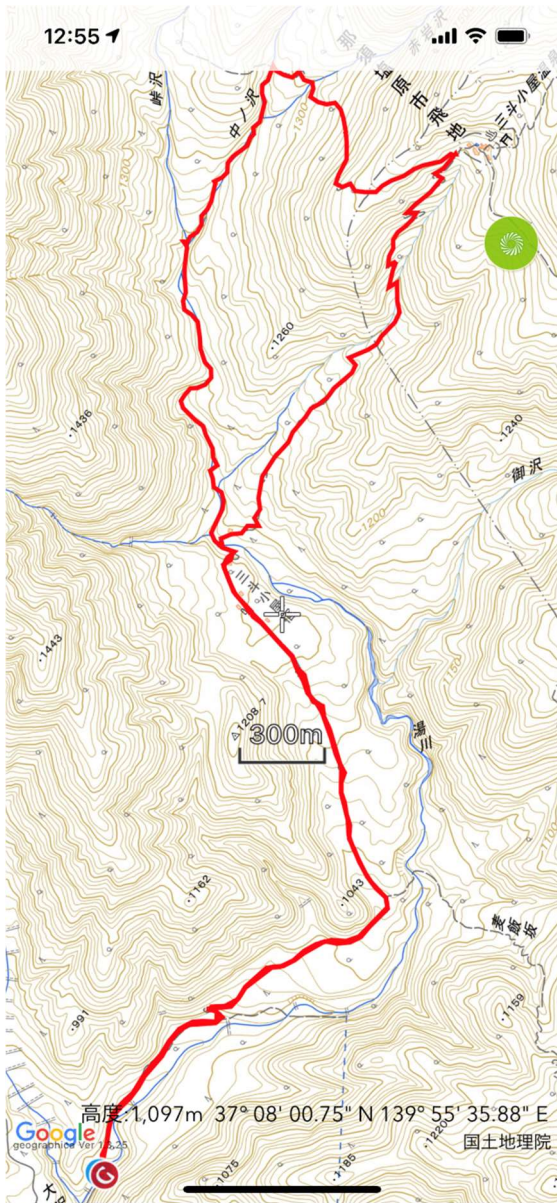
13:00

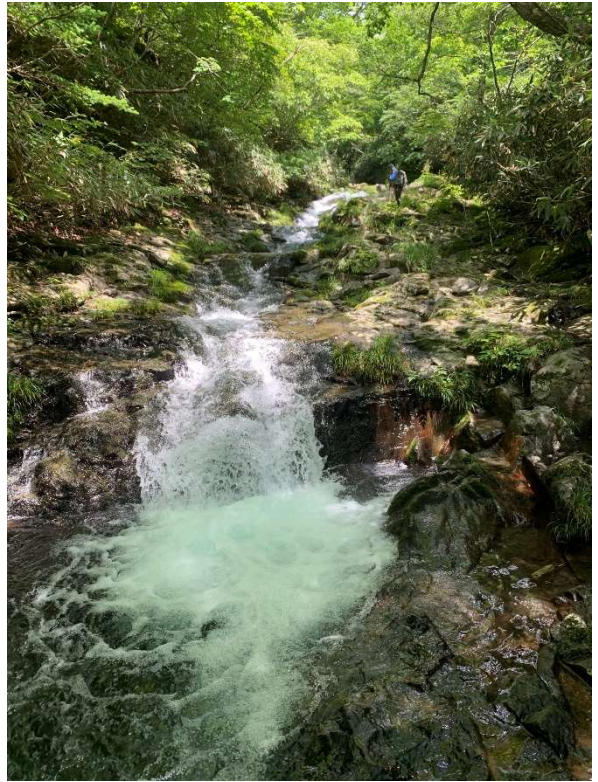
ここからは三斗小屋まで 40 分登り、入渓地点まで 1 時間下る。

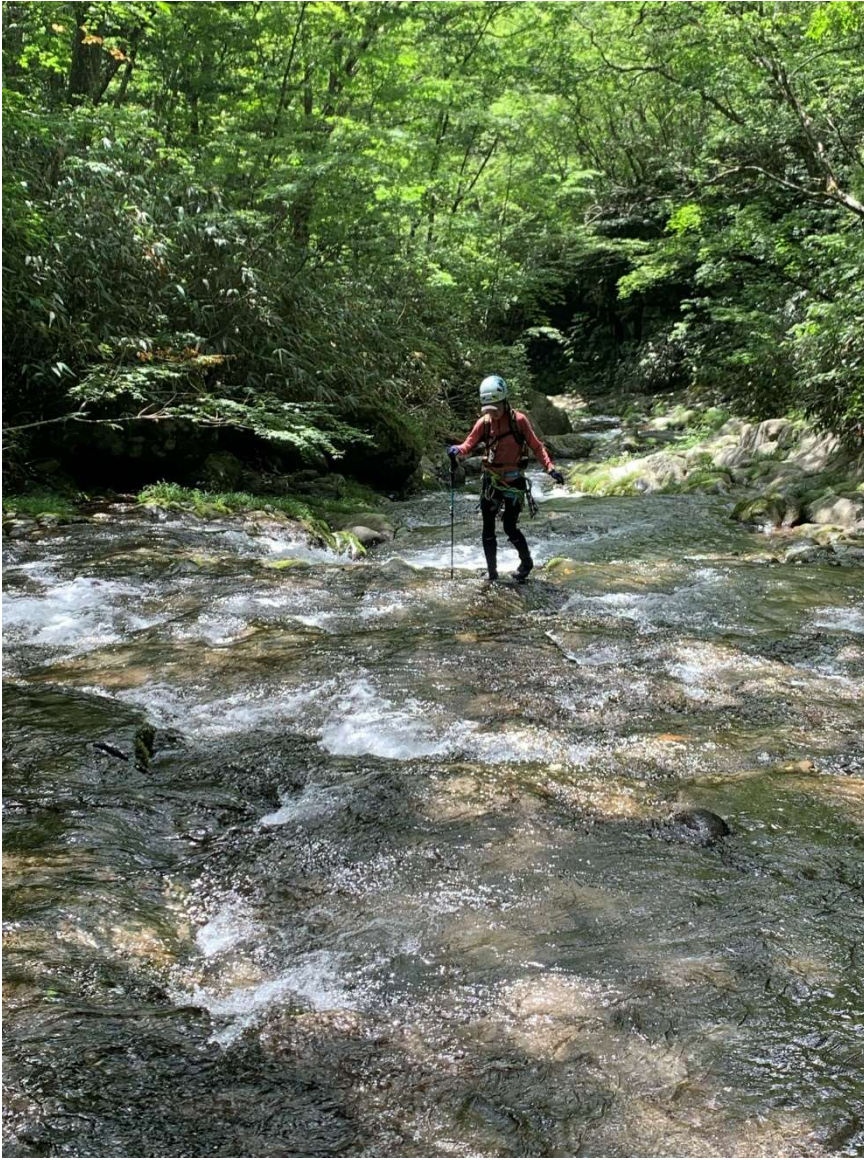
その後、林道を車まで、1 時間。

約 20Km、楽しく歩いた。

文責：栗崎 透







滝川溪谷遡行

2021 年 8 月 3 日(火)

秋葉、栗崎 2 名

矢祭町の滝川溪谷を遡行してきた。

滝川溪谷は沢の横にハイキングコースが続いていて、滝を眺めながら、安全にトレッキングができるようになっているがその沢の水線を辿ってきた。

入渓すると、直ぐにゴーロ歩きとなり、水量も多く歩きづらい。

大きな滝が次から次へと出てくるが、水線を外せば、滝横をクライミングできるのが楽しい。

水量が多くて、小滝も水線はなかなか登れない。

釜も深く、泳がないと滝に取り付け無いところも、巻き気味に滝横を登る。

一か所、大滝をトレッキングコースから大巻きしてから懸垂下降で沢床に降りた。

その後も結構な滝が続き、疲れて、飽きてきたところにトレッキングコースに上がり遡行終了とした。

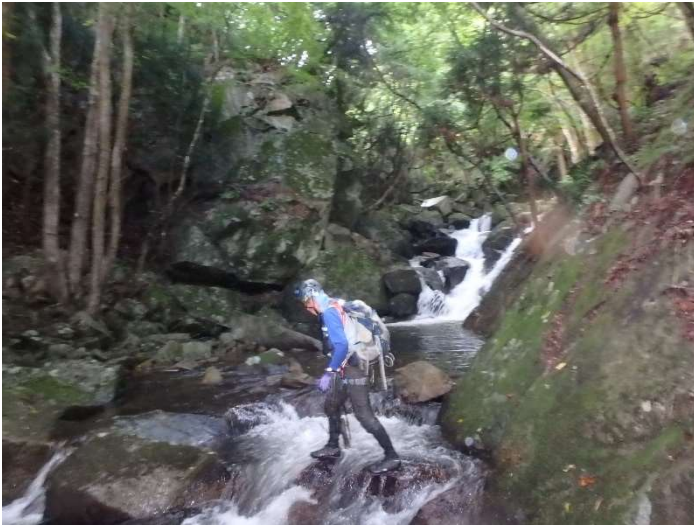
2 時間のトレッキングコースを 4 時間かけて遡行した。

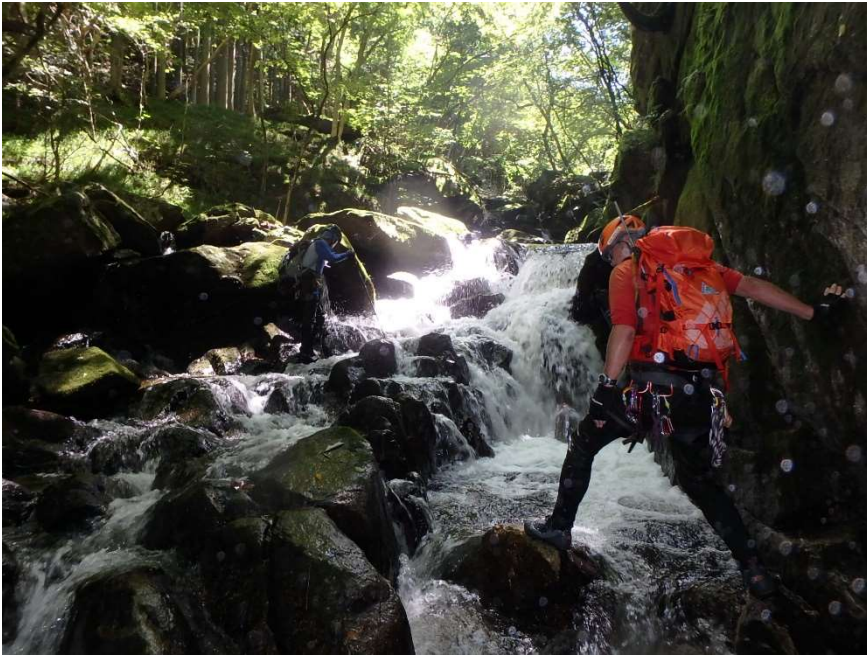
滝川の里農産物直売所で美味しい蕎麦とビールで乾杯！

昨日の中の沢は明るくて水もきれいな美しいナメの沢だったが、ここは、深い、暗い溪谷で、やはり上流に生活圏があるところの水は少し臭う。

ただ、ロープ使用や滝登り、泳ぎなど色々な場面が出てくる、練習するにはいい沢でした。







広野町・五社山（685m）

2021年8月28日（土） 太

富岡町の大倉山に立ち寄った後、夕暮れまで時間があつたので、広野町の五社山に登った。

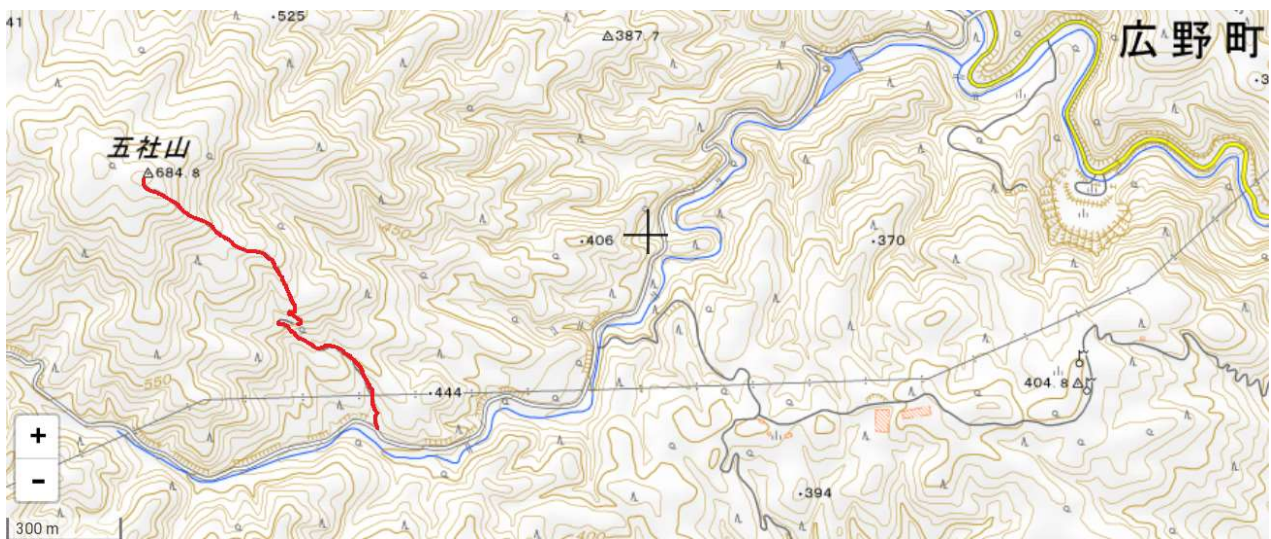
広野町から五社山へのアクセスは、浅見川に沿って県道 249 号（上戸渡広野線）を上流に進めばよい。崖の上に建つ大滝旅館から2km先、左折して橋を渡り、林道「五社山・黒森・大内線」を3km少し進むと、「五社山ふるさとの森案内図」の大きなマップが立っている。「下の登山口」と云われる場所で、付近には駐車場もある。（ちなみに、ほぼ山頂である「上の登山口」には駐車場のほかトイレもある。）

下の登山口に駐車して、樹林の中「やまのぼりの道」を登って行くと、展望台のある「海展望広場」に出る。展望台からは、太平洋が広く見渡せ、その手前に火力発電所も望める。三角点（三等「五社山」684.75m）のある「山頂広場」まで行って、登ってきた道を戻り下山した。

文責：太

タイム

14：40 下の登山口→15：15 展望台(海展望広場)→15：25 山頂(山頂広場)→16：00 下の登山口



川内村・五社山（598m）

2021年8月28日（土） 太

川内村の五社山に数か月ぶりに登った。前回登ったときは、早渡登山口からコースを無視して登ったが、今回は宮渡登山口からコースどおり、五社八幡神社の表参道を登った。

村内の国道 399 号に「五社山・五社八幡神社入口」案内があり、そこから木戸川に架かる橋を渡り、直進して細い舗装路を突き当りまで行く。カーブミラーの奥に、消えかかった文字で「五社八幡神社参道入口」と書かれた案内があり、民家ブロック塀に沿って右奥に進むと、木造の鳥居が建っている。参道入口付近は、道が細いので、近くの小学校前の駐車場に車を停めると良いだろう。

鳥居をくぐると、よく整備された山道が樹林の奥へと続いている。地形に沿った比較的広い山道を進んでいくと、沢が徐々に狭くなり、道が傾斜を増していく。大岩の上に石祠がある場所を過ぎ、トラバース気味に斜面を登ると尾根に出る。尾根で早渡コースの道が合流してくると、五社八幡神社はもうすぐ。

五社八幡神社は巨岩の前に祀られた石祠であり、巨岩を右に巻くように登ったところが山頂。難所ではないがロープがあり、露岩の山頂の立つと北側に大きく展望が開ける。眼下に川内村の町並み、周囲に大鷹鳥谷山、大滝根山、万太郎山など、阿武隈高地の山々が眺められる。なお、三角点（四等「五社山」597.50m）は、山頂から北西に 100m 弱のところにある。

文責：太

タイム

10:05 宮渡登山口→10:30 早渡コース分岐→10:35 五社八幡神社奥宮・山頂→10:45 三角点→10:55 早渡コース分岐→11:15 宮渡登山口



赤線が国道 399、黒破線が五社八幡神社の参道



民家ブロック塀前の案内板から右奥へ



屹兔屋山（875m）

2021 年8月 28 日（土） 太

川内村の五社山に登りに行く途中、屹兔屋山に立ち寄った。

屹兔屋山は、市内で最も高い一等三角点峰。ニッ箭山や三森山からの縦走は、冬季トレーニングに重宝するが、トレッキングをしない方には少し厳しいかもしれない。そんな方のために山頂への最短アクセスを紹介する。（山岳会会員は読まずに、次の記事へ飛ばしてほしい。）

市内から川内村に向かって国道 399 号を走ると、小川町上小川の内倉地区から道が細くなってカーブの多い登り坂になる。登り道が終わり、中戸渡地区に下る手前に峠がある。十文字と呼ばれている場所で、そこで大きく右折すると県道 249 号（上戸渡広野線）に入る。樹々が迫る細い県道を 1 km ほど進み、ヘアピンカーブの下りに差し掛かる手前、砂利等が積まれた空き地がある。車はここに駐車するのが良いだろう。ここから先 0.7 km が徒歩になる。

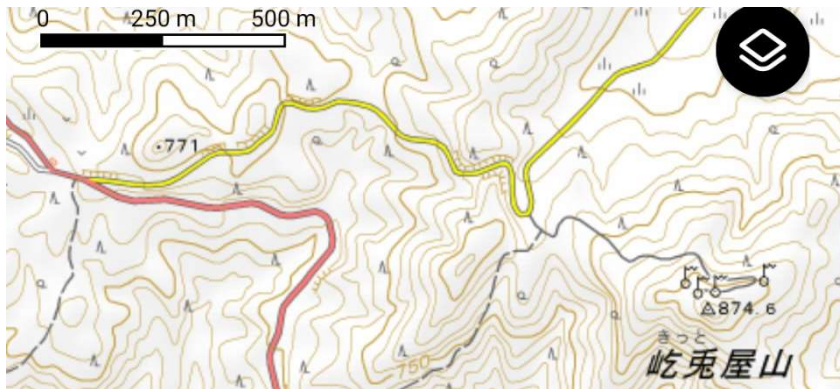
ヘアピンカーブの先端に電波塔への管理道入口がある。少し進んだ先の鎖ゲートを越え、砂利道を登って行く。500m ほどで大きな電波塔があり、その手前両側に登山道入口がある。左に下ると猫鳴山・ニッ箭山への縦走路で、右に登ると山頂までは 100m 足らずである。

山頂は、夏季の繁茂する樹木で展望はなく、遠くに少しだけ山麓が見えた。山頂標柱、三角点ほか、山岳会が置いたプラスチック方位版などを確認して、そのまま来た道を車まで戻った。

文責：太

タイム

8：40 県道 249 号→8：25 屹兔屋山→9：15 県道 249 号



赤線が国道 399、黄線が県道 249、黒実線がアンテナ管理道



甲子山（1549m） 甲子旭岳（1835.2m）

2021年9月11日(土)・12(日)

参加者：下山田、秋葉、栗崎（透）、栗崎（容） [教室]青天目、安部、佐藤（春）、山中

8月教室山行の「船形山」がまん延防止等重点措置期間になり中止になったため、有志で坊主沼避難小屋に一泊して甲子山と甲子旭岳（赤崩山）に登りました。

甲子温泉「大黒屋」の脇を川に向かって進むと甲子山登山口になります。雨こそ降っていませんが雨上がりの曇り空でイマイチの天候です。登ってすぐの登山道脇には温泉神社がありました。雑木林の山腹のつづら折りをしばらく登ると猿ヶ鼻と呼ばれる稜線にでます。ここからはなだらかな尾根道が続きます。甲子峠の分岐からはロープや鎖がある急登を登り進むと甲子山の山頂に到着しました。山頂はガスっていて本来ならば甲子旭岳や三本槍岳が目の前に見える眺望があるはずが望めず残念です！



早々に山頂を後にして甲子旭岳に向かうルートを下ると分岐がありました。旭岳と坊主沼避難小屋へ向かう分岐です。当初の予定は旭岳に登るのですが天候が良くないのでこのまま坊主沼避難小屋に向かうことになりました。途中で水場があり夕食用の水を汲んでから進み、ロープが設置されている急登を登り避難小屋に到着しました。

避難小屋には13時半頃に到着しましたが、なんだかんだするうちに14時頃には大先輩方はいつの間にか始まっていました。ということでわれわれも必然的に参加することになってしまいました。各自、持参した飲み物やつまみで反省会が始まったのです！こんな時間から始めるとどうなるのでしょうか？！夕食は春美さんが準備して調理した2種類のうどんを食べました。大変美味しかった！！春美さん！ありがとうございましたm(_ _)m

夕方には西郷村から登山道の仮払いの委託を受けている2人が小屋に到着して計10人が小屋泊しました。



2日目の天気はばっちりです。朝食を取ってから予定より1時間早く7時頃には小屋をあとにしました。坊主沼に立ち寄りましたが、これから登る甲子旭岳が沼の水鏡にくっきりと映っていました。

水場を過ぎ分岐まで戻ります。分岐ではサブザックに必要なものを入れて今まで背負っていたリックはデポします。ハーネス、スリング、カラビナを装着し甲子旭岳に向かいました。登山道は急登あり藪漕ぎありで登山者が少ないのか荒れているところがありました。天気が良かったので山頂からの見晴らしはバッチリでした。懸垂下降等のロープワーク実習をおこなっていただきました。分岐まで戻りリックを背負いなおして甲子山に登ってから下山です。甲子山山頂は昨日と打って変わり眺望を楽しむことができました。

教室生は初めての避難小屋泊を経験しました。リックも日帰り登山と違い装備や食材などのため重くなりました。座学の講習ではわからなかったことがいろいろと勉強できて経験することができました。先輩方ありがとうございました。



タイム

1日目：甲子登山口8：25→猿ヶ鼻10：05→甲子山11：30→坊主沼避難小屋14：30

2日目：坊主沼避難小屋7：00→坊主沼7：15→甲子旭岳9：45→甲子山12：20→甲子登山口14：00

（文責：山中）



甲子山・旭岳 山行報告

2021 年 9 月 11 日（土）～12 日（日）

参加者：下山田、秋葉、栗崎（透・容子）、青天目、山中、佐藤、安部

9 月の登山教室は新型コロナにより中止となり、自己責任の任意参加で甲子山・旭岳に行ってきました。車内等ではマスクを着用し感染に留意しながらの山行を行いました。

一泊二日の避難小屋泊（自炊・寝袋）は初めてなのでドキドキ・ワクワクでした。

当初予定は三本槍岳を目指しましたが天候があまり良くなかったので取りやめとなりました。天候などの状況によって計画を変えるということを学びました。また、その他貴重な経験を積ませて頂きました。

集合場所を 6：00 出発し、甲子山登山口に 7：50 位に着き準備を始め、8：20 にスタートをしました。大黒屋旅館の前を通過して少し下ると阿武隈川の源流と沢に係る砂防ダムからの澄んだ水に歓迎されます。そしていよいよ登山開始となります。広葉樹の林を登り始め、登山道は急斜面をトラバースしながら登っていきます。歩くこと 1 時間 50 分位で急斜面が終わり尾根沿いで少しなだらかになった「猿ヶ鼻」に着き小休憩としました。樹林帯の中と言うこととガスが掛かっていたので眺望は望めませんでした。山頂までの道のりは結構急な箇所もあり、ロープが掛けてありました。約 1 時間後、待望の



「甲山」（1549m）の山頂に着きました。ここまで登山開始から約 3 時間です。山頂部では残念ながらガスが掛かっており眺望は望めませんでした。ここで軽く昼食を取り次に向かいます。

本日の予定は旭岳に登り、坊主沼避難小屋に泊まる予定でしたが、旭岳のガスが掛かっているようなので中止し、直接坊主沼避難小屋に向かう事になりました。また、樹林帯の中を下って登ってを繰り返して、約 1 時間 20 分後の 13：45 に坊主沼避難小屋に着きました。避難小屋は 1 階建てで

中はコの字型に床が張ってありました。本日は天候不順なのでここで腰を落ち着ける事になりました。ということで夕食まで大休憩となります。早速喉の渇きを潤しはじめ、落ち着いたら坊主沼周辺の探索に行こうかと話をしていたら、雨が降ってきました。探索はあきらめ、じっくり腰を据えてのご機嫌タイムとなりました。14 時からです。おつまみは各自が持ち寄った物をごちそうになりました。シェフの焼肉美味しかったです。

途中で登山道を整備されている方 2 名が仕事から上がってこられました。避難小屋に泊まり、明日も整備作業をし、下郷町側に出るそうです。この方々のおかげで迷わずに歩くことができます。ありがとうございます。



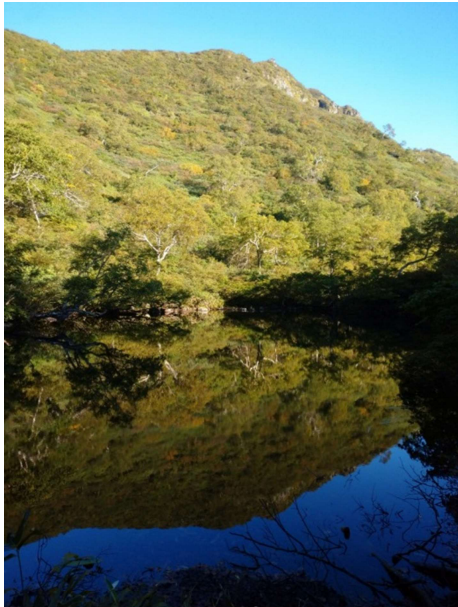
暗くなってきたので夕食タイムになりました。本日の夕食は佐藤さんが作ってくれた「もつ煮込みうどん」です。美味しかったです。なんかおふくろの味がしました。夕食が済み、暗くなったので就寝タイムとなりました。19:00です。やることがないので寝ます。

二日目



朝5時頃には目が覚め、朝食（うどんを作ってもらいました。）を取り、準備、片付けをして、7:00に避難小屋を出発しました。本日の行動予定は三本槍岳登頂予定でしたが、旭岳登頂に変更となりました。15分ほど歩き坊主沼を散策しました。本日は昨日と違って変わり快晴となりました。昨日は見えなかった旭岳が青空の中できれいに見えます。湖面も静かで逆さ旭岳を拝見できました。

その後甲子山に向かって歩き、旭岳分岐より下山田さんと別れ、旭岳に向かいました。最初は緩い登りでしたが途中から急斜面が続き結構きつかったです。分岐から1時間30分程歩き9:35に山頂に到着しました。本日は雲もありましたが快晴で最高の眺望が楽しめました。先日言った「大峠・流石山」が見え考え深い感じでした。ここで小休憩を取り、来た道に戻りました。途中2か所でロープワークの懸垂下降の講習を受けました。大変参考になりました。分岐に戻り、栗崎さんが持ってくれたロープを分担して運ぶ事になりました。重い。自分の装備、コンロ類、食材の他にこんな重い物を担いでいたとは、、、恐れ入りました。大変でしたね。ありがとうございます。重かったです。



甲子山山頂に 12:20 に着き昨日見れなかった景色を楽しみました。旭岳が存在感を出しています。見晴らしが良いと気持ちが良いですね。

山頂で眺望を楽しんだ後は、一刻も早く下山して大黒屋の風呂に入りたい、はなのやで美味しいご飯を食べたい、の一心で重いロープを背負って速足で帰路に着きました。「猿ケ鼻」でロープの運びを変わって頂きました。ここからは急斜面をトラバースして下っていきます。下ること1時間40分、14:00に無事登山口に下山できました。お疲れ様でした。初めての自炊・寝袋泊はへとへとでしたがとて

も楽しく貴重な経験でした。

早速、大黒屋旅館の露天風呂に入りさっぱりしました。15:00までに上がらなければならなくゆっくりできないのが残念でした。



す番です。「はなのや」にて昼食を取りました。私はカツ丼を食べました。カツがどんぶりからはみ出していました。みそ汁のキノコが美味しかったです。枝豆も美味しかったです。他の方が食べていたタンメンも美味しそうでした。次回はタンメンにします。

昼食も終わり、帰路に着きました。18:20 無事に集合場所の駐車場に着き、事故・ケガも無く解散となりました。お疲れ様でした。

今回の山行は、初めての避難小屋（自炊・寝袋持参）一泊二日でした。今までは日帰りが主だったので荷物の量もそれ程でも無かったのですが、今回は寝袋・火器・食材を持っの登山、重かったです。これのロープ等。

栗崎さんありがとうございました。また、座学では理解しきれない現場での実習訓練。下山田さん秋葉さんありがとうございました。貴重な経験を積ませて頂きました。また、次回もよろしくお願いいたします。

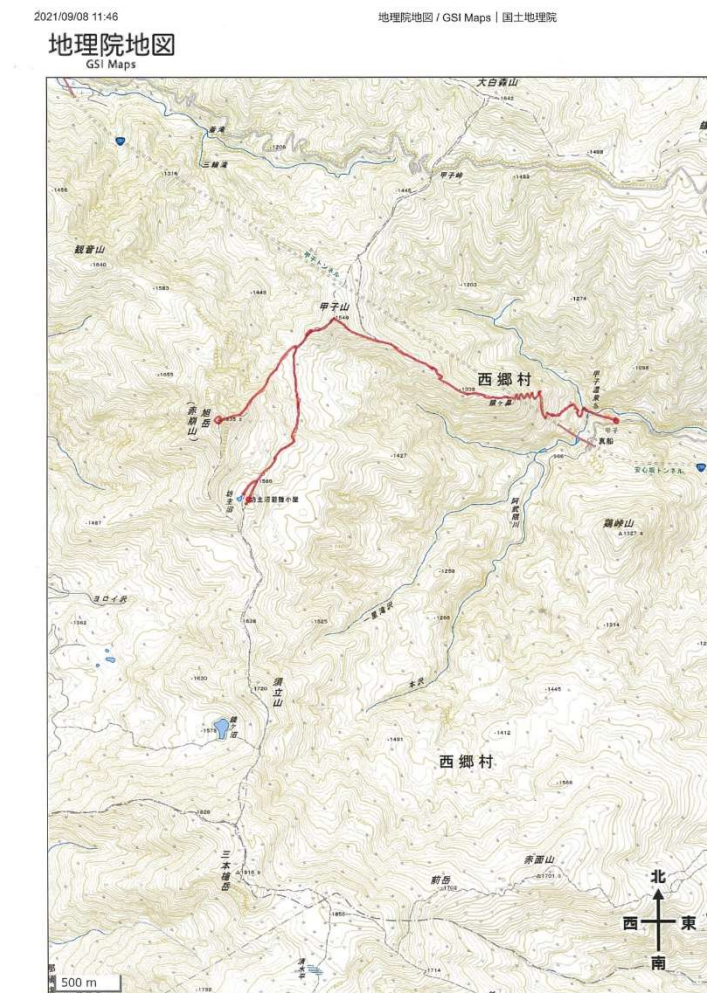
タイム

甲子山登山口出発 8:20 → 猿ヶ鼻 10:30 (小休憩) → 甲子山山頂昼食 11:25~11:45 → 坊主沼避難小屋着 13:45 → 休憩 14:00 → 夕食 18:00 → 就寝 19:00 ~

起床 → 朝食 6:00 → 避難小屋出発 7:00 → 坊主沼散策 7:15 → 分岐 8:05 → 旭岳山頂 9:35~9:50 → 分岐 甲子山山頂 12:20 → 駐車場着 14:00

(文責：安部)

コース地図



旧白河高原スキー場～甲子温泉

2021年9月12日

片岡 康介 他1人

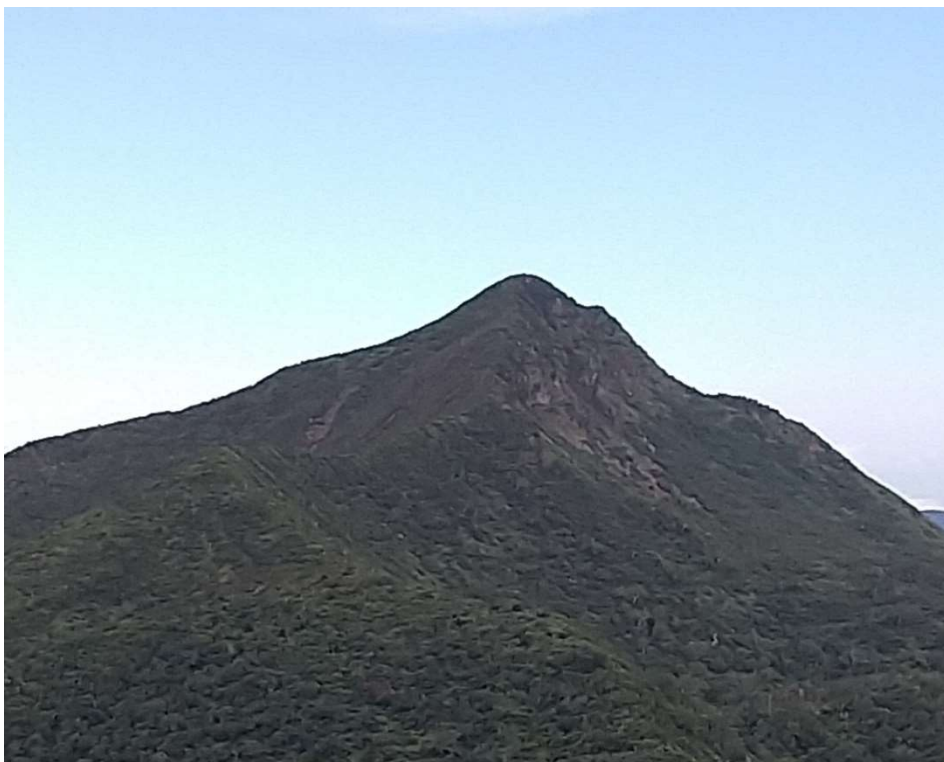
福島百名山を効率良く歩こうと旧白河高原スキー場から甲子温泉まで縦走しました。日の出後より登り始め、赤面山～前岳～三本槍岳～須立山～甲子山～甲子温泉のルートで約17km（8：35）の道のりでした。途中、藪が残っているかと思っていたのですが、山を管理してくださる方が草刈りをしてくださっていたので助かりました。途中旭岳で山岳会の皆さんと会い、びっくりしました。



スタート地点の旧白河高原スキー場



三本槍岳を
過ぎて鏡ヶ
沼



今度登って
みたい旭岳

文責：片岡康介

御前ヶ遊窟（846m）

2021年9月15日(水)

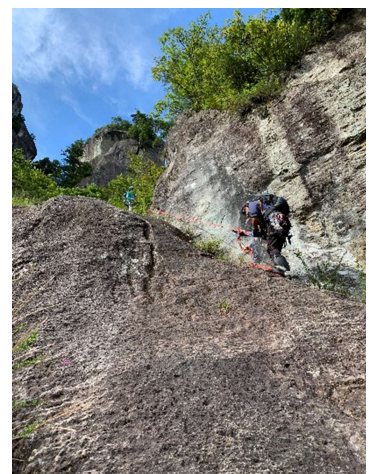
参加者：秋葉、栗崎（透）、栗崎（容）、吉田（睦）、山中

近づいている台風から変わった温帯低気圧の影響を受ける前の晴れ間に下越の御前ヶ遊窟（ごぜんがゆうくつ）へ山行しました。標高こそ846mですが低山とは思えぬ景観を持つ山です。

車を止めてから200mほど歩くと登山口になります。登山口の立て看板には「上級向けの山」と書いてありました。はたして私は大丈夫なのでしょうか？不安がよぎります。柴倉川支流の鍬ノ沢に沿って山道を進みます。しばらくして最初の渡渉、水量はさほどでもなく渡りやすかったです。さらに山腹の道を進むと藪漕ぎの連続が待ち受けていました。メنز二人が先頭になり藪に分け入り突進です。藪を抜けてからの山道では足を滑らせて道脇のくぼ地にハマってしまうアクシデントがありましたが、幸いにも怪我なし。沢側が切れ落ちてブッシュで隠れている悪路を進み、2度ほどの渡渉の後、シジミ沢出会にようやく到着しました。ここで昼食をとり軽めの休憩をしてからいよいよ大スラブのあるシジミ沢に入りました。



はじめに木々の中にある石をよじ登っていくとすぐに明るく開け前方に御前ヶ遊窟の岩峰群が見えました。いままでの山行には無い景色に感激です！スラブの濡れているところを避けて登ります。傾斜が微妙ところではブッシュに掴まって登りました。大きく開けた上部のスラブにくるとルート選択が重要になりました。傾斜と掴めるところがあるかを見極め登らなければなりません。



気が抜けません。スリングをつないだロープで補助をしてもらい何度か危うい場面を回避し、また私よりも早めに遊窟に到着していた同行のレディースからのガンバレの声援をいただきやっとのことで御前ヶ遊窟に到着しました！それにしてもレディースは元気でした。御前ヶ遊窟は岩屋になっており、その昔平家の奥方が隠れ住んだとの伝説があります。けっこう広めの空間になっていて静寂な雰



囲気に包まれていました。

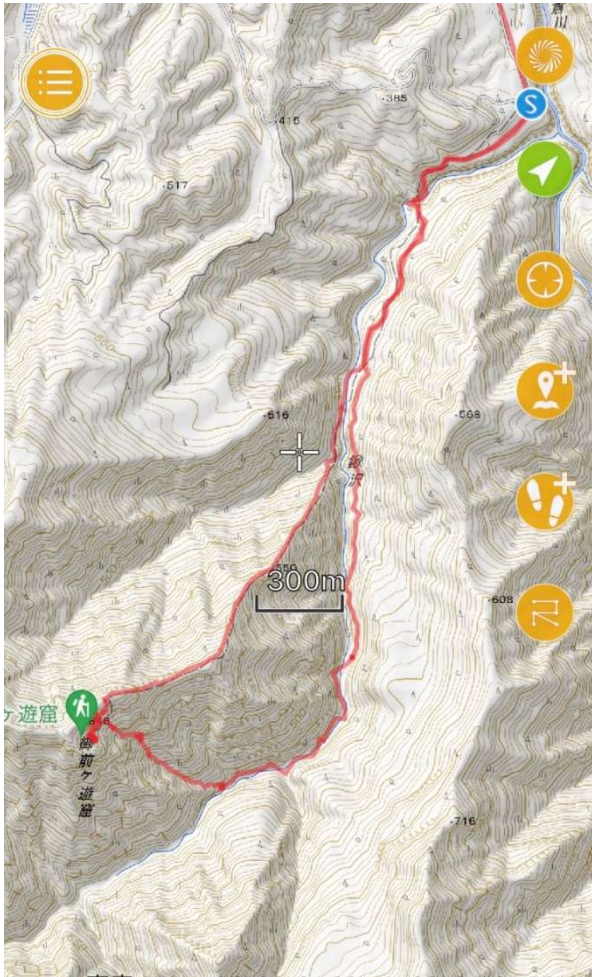
本来なら井戸小屋山経由で下山予定でしたがここまで来るのに時間もかかっていたため井戸小屋山を経由せずソウケイ新道を下山しました。はじめは細尾根で岩場になっており鎖場もあり気を抜くことができませんでした。上り下りが続きなかなか標高が下がりませんでした。日が西に傾きかけてきた中を下ります。5か所くらいの鎖場を経てようやく沢沿いの山道になり2ヶ所の渡渉ののち暗くなってきたのでヘッドランプを装着して山道を急ぎました。そんなこんなでようやく登山口にたどり着くことがきました。みなさんお疲れ様でした！！今回もみなさんに大変お世話になりました！



タイム

棒目貫登山口 9:10 → 登山道合流 9:45 → シジミ沢出合 11:50 (昼食) → シジミ沢 12:15 → 御前ヶ遊窟 15:00 → 棒目貫登山口 18:20

(文責：山中)



鷹巣山 (559m)

2021 年9月 19 日 (日) 太

時間ができたので、トレーニングを兼ね、近場で登ったことのない鷹巣山に行った。

鷹巣山は、花園神社、花園溪谷より下流、水沼ダムの北側に位置する。県道 153 号 (水沼磯原線) から上流側の橋を渡って、ダム管理事務所に向かうと、その手前、左側に登山口案内板がある。事務所を過ぎ、大きく右折して下ると、ダム下の公園広場。四阿とトイレ (ただし水は出ない) があるので、ここに駐車する。

登山口案内板まで戻り、階段状の道を上がると、良く整備された尾根道が始まる。杉林の中を登って行くと、アップダウンを繰り返しながら徐々に高度を上げ、水沼山に至る。指道標の前に測地杭があり、「水沼山頂 459m」と書かれた案内板も置いてある。

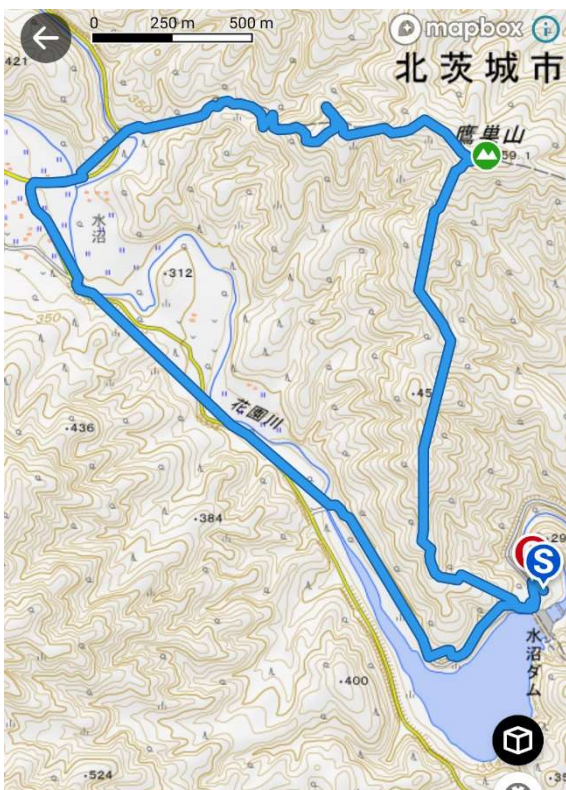
水沼山から先も同様に、樹林に馬の背はあっても特に危険もなく、眺望のないアップダウンが続く。最後に急坂を登って右折した先が鷹巣山の山頂。三角点 (三等「大柴」559.09m) 標石のほか、「鷹巣山山頂 559.4m」と書かれた白い山名板が立っている。

下山は、ほとんどの人が東南東に下って周回するが、逆方向の西北西に下って大きく周回した。このコースは、踏み跡が薄く、道案内のテープも少なく、二度ほど道迷いしてしまった。何とか予定通り作業道に出ると、県道 27 号 (塙大津港線)、県道 153 号 (水沼磯原線) を歩いて車まで戻った。

文責：太

タイム

12:50 ダム登山口→13:10 水沼山→13:45 鷹巣山→14:25 作業道→14:35 県道 27 号→14:40 県道 153 号 (水沼集落・農産物加工所)→15:15 ダム登山口



月山登山（1984m）

2021年9月19日（日）・20日（月）

秋葉・下山田・栗崎夫妻・安部・佐藤（春）・青天目

9月19、20日、月山姥沢の登山口→月山→念仏ヶ原避難小屋泊→肘折温泉登山口まで縦走してきました。

前日まで、台風14号の影響により雨でしたが、当日は朝から雨も上がり快晴。水石トンネル駐車場を6時に出発、磐越道・東北自・山形中・山形道を使い8時50分、月山姥沢に着く。早速準備してリフト乗り場まで歩きリフトに乗る（片道600円）9時40分リフトを降りる、天気は快晴で頂上付近は既に紅葉が始まり、頂上からはどのような景色が見られるのか気持ちが高揚する。

沢山の登山客と一緒に頂上を目指す。コロナ外出自粛は？？

途中牛首で休憩する。頂上が近くなるとガレ場と急こう配になり歩き難い。息が切れそうでしたが、庄内平野・鳥海山・朝日連峰などの素晴らしい景色と紅葉に元気を頂き11時35分無事登頂できました。

登月山神社にお参りしてから昼食をとりました。



12時、今日の宿泊となる念仏ヶ原避難小屋を目指し、賽ノ河原を下り始める。賽ノ河原はガレ場に草が生い茂ったようで穴だらけ。また、所どころ急な段差があり、ストックなしでの歩行は難しくストックを出す、怪我をしないよう足の置き場に注意しながらの歩行でした。

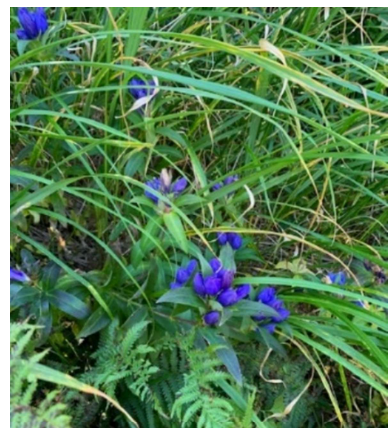


千本桜過ぎてからは、茂みと泥濘と勾配も手伝い歩き難く転倒すること数回、落ち込みそうな心を野生のリンドウがとても綺麗で慰められました。



清川橋渡りしばらく歩くと念仏ヶ原に着いた。後ろを振り返ると先ほど登った月山が綺麗に見えた。そこから念仏ヶ原の木道を少し歩くと避難小屋に15時に着きました。

早速、夕食の準備に入る。安部さんの冷えたビール・春美さんのオジヤがとても美味しかった。酒の酔いと疲れて眠



りにつく。

二日目、避難小屋を6時15分に出発、朝露の残る茂みの登山道を少し歩くと、茂みから出る。ここは秋葉先生のお薦めスポットで、以前に来たときは池に月山が映り最高の景色だったとの事、今回は池に月山は映りませんでしたがとても綺麗でした。

小岳で休憩する。ここからは、トラバースの連続でガレ場と軟弱地盤の連続で滑り落ちないように、注意をしながら歩くこと約1時間で大森山に着く、10分ほど休憩する。ここから下山田さんが待っている肘折温泉登山口までは20分、少しホットする。11時に無事



下山することが出来ました。

後は、肘折温泉で疲れを癒し、美味しい蕎麦と豆腐を頂きました。その後、温泉街を探索してから帰途に、18時水石トンネルに着きました。

下山田さん、色々と運転有難うございました。



文責：青天目

秋田遠征

森吉山

桃洞沢～赤水沢

和賀岳

2021 年 9 月 23 日から 26 日

秋葉 栗崎透 栗崎容子

三泊四日の秋田遠征に出掛けた。一日目は移動日、二日目は森吉山を登り、三日目は桃洞沢遡行赤水沢下降、四日目は和賀岳登山後帰宅、の予定で出かけた。

9/24 金曜日 森吉山

前日、親子ふれあいキャンプ場にて、快適に盛大に天気祭りをしたにもかかわらず、夜中に大雨と強風に見舞われる。

朝、雨は上がったが、予報通りの快晴とはいかずガスが垂れこめた空模様。

7:50 ヒバクラ登山口出発

緩やかな歩きやすい登山道が続くが、ここは阿仁マタギの地。

そこここから、今にも熊が出没しそうな雰囲気だ。熊よけの笛を吹きながら足早に歩く。コースタイムより早く、ヒバクラ湿原を通りヒバクラ岳に到着。

周りの木々はうっすらと色付いてはいるが、ガスが濃くて近場しか見えない。

この後いったん下り、登り始めると森吉山山頂の北東に広がる、標高 1300m の山人平。木道の湿原で、花の盛りは一面の花畑と化すところだそうだ。

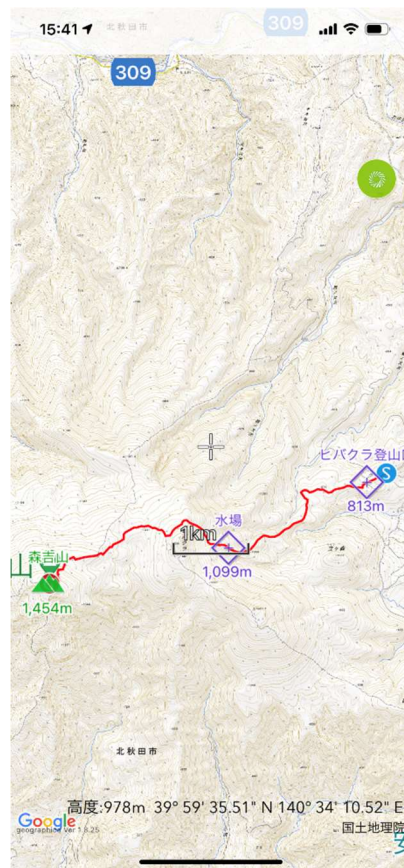
最後の急登をつめれば 1454m 森吉山山頂。

残念ながら真っ白。

昼食を摂りながら、一時間ほど待つとガスも上がり少しずつ周りの景色が見られるようになった。

帰路には、登りに見つけていたブナハリタケとナラタケを少しいただき、豪華な美味しいディナーにありついた。





9/25 土曜日 桃洞沢遡行 赤水沢下降

こちらは秋葉さんのレポをご覧ください。

9/26 日曜日 和賀岳

6:00 甘露水登山口を出発。

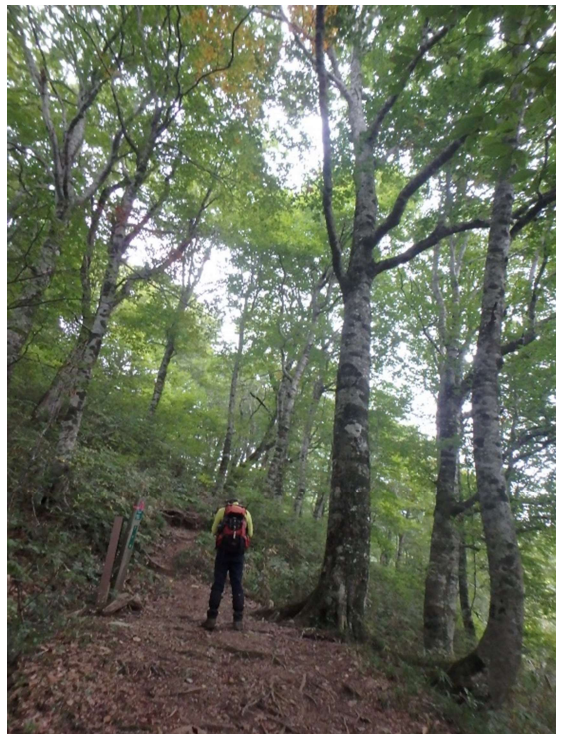
この山も緩やかな登山道で、とても整備をされていて登りやすいように道がつけられている。途中の水場で朝食をとり、なおも進むと薬師岳の稜線に出た。ここから、森林限界の笹原で、猛烈な風と湿気を含んだガスが顔に体に容赦なく叩きつける。

やっとの思いで薬師岳に到着したが、雨具を着てても寒い。

この先は、和賀岳のハイライトで軽いアップダウンの稜線散歩なのだが、この風ではどうしようもない。薬師岳を今日の山頂とする。

風の当たらない樹林帯まで駆け降り下山を始めると、日も差してきて、風もそよそよ・・・

いや、でも森林限界の笹原の稜線は暴風に間違いない。絶対そうだ。



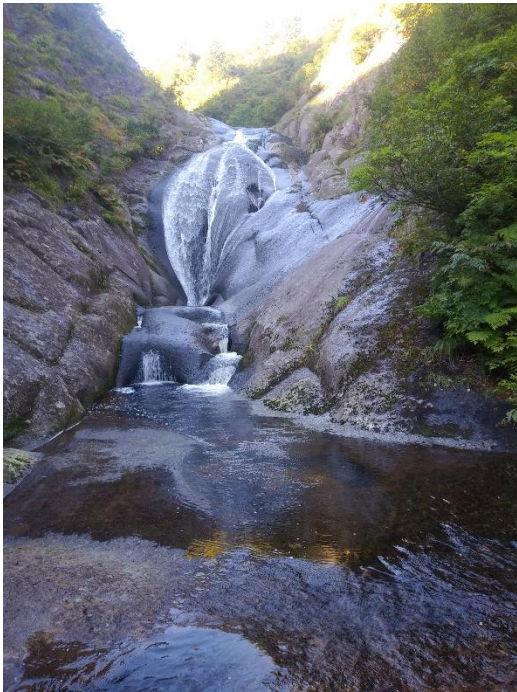


山行報告 森吉山 赤水溪谷（桃洞沢～赤水沢）

2021 年9月 25 日（土） 秋葉信夫、栗崎透、栗崎容子

NHK の「日本二百名山」で田中陽希が森吉山に登山してから赤水溪谷の甌穴で水浴びするのが映し出された「こんな素敵な所があるのか！」と、ずっと思っていた。数年前、沢登りには早い時期に桃洞滝と赤水溪谷入口を下見してきた。

今回、コロナの影響で栗崎さんが連続した休みを取れるので急遽行くことにした。どこまでも続くナメと明るい滝・小滝の連続、沢歩き楽しさを堪能できました。



鳥獣保護センターを出発し、平たんなブナ林の中の遊歩道を進む。赤水沢分岐を過ぎると桃洞沢のナメが現れる。桃洞滝までは遊歩道状になっている。

桃洞滝は 40m ナメ滝でステップが刻まれているところ

を登るが、途中でステップを見逃し、立ち往生してしまった。上からロープ

で確保してもら

う。その上からはナメと小滝の連続



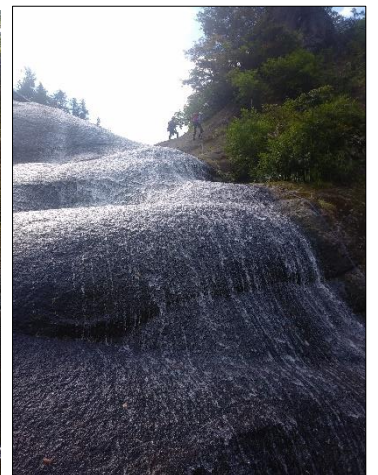
で、難しい所にはステップやトラロープがあるので注意して登る。

何段もの滝を懸けている本流を右に見て、二股を右に進み、ハング滝を超えると尾根、休憩する。

尾根から下ると直ぐに赤水沢源流となる。こちらにもナメと小滝の連続で、枝をつかんだり、スリングを使ったりしながら下る。

危ない所は懸垂下降。40mの兎滝は 30m ロープ 2 本を繋いで懸垂下降で降りる。振られると滝つぼに落ちてしまうので慎重に降りる。

これ以降は滝は無く、広い明るいナメが続くが、溝や甌穴があり、光に反射し見えにくいので注意が必要だ。私も溝に脚を取られず濡れになってしまった。偏光サングラスが有効だ。

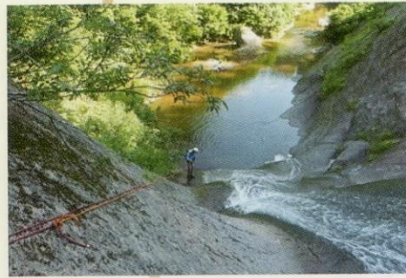


コースタイム 鳥獣保護センター 6:20 → 赤水沢分岐 7:15 → 桃洞滝 7:45 → 二俣 8:00 → 本流 8:30 → 二俣 9:25 → 尾根 9:50 → 赤水沢源流 10:10 → 二俣 10:40 → 兎滝 12:40 → 左岐 12:50 → 赤水沢分岐 13:55 → 鳥獣保護センター 14:40

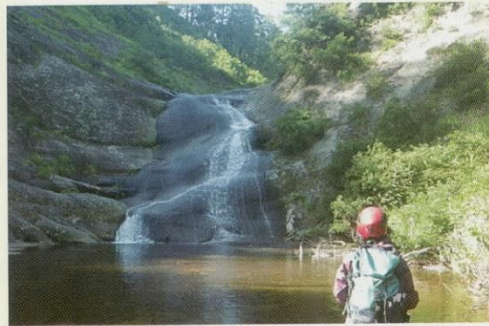
（文責：秋葉信夫、遡行図は白山書房「ウォーターウォーキング3」より引用）



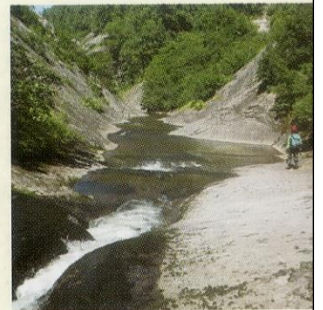
①⑦ 細長い釜に入らないように足で突っ張って下る



①⑩ 兔滝 40m 下段を 2 回目の懸垂下降



①⑪ 兔滝 40m 全景



①⑫ 氷河カールのような U 字谷の、美しい赤水 溪谷のナメを下る